

Title	日本語を母語とする中国語学習者の「的」の過剰使用について(1)): 連体修飾マーカ-の日本語中国語双方向習得研究の立場から
Author(s)	張, 麟声
Editor(s)	
Citation	言語文化学研究. 言語情報編. 6, p.1-15
Issue Date	2011-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10466/14229
Rights	

日本語を母語とする中国語学習者の「的」の
過剰使用について(1)

連体修飾マーカの日本語中国語双方向習得研究の立場から

張 麟 声

Journal of Language and Culture
Language and Information
Vol. 6 (2011)
Department of Language and Culture
School of Humanities and Social Sciences
Osaka Prefecture University

言語文化学研究(言語情報編)
2011・3 第6号抜刷
大阪府立大学人間社会学部 言語文化学科

日本語を母語とする中国語学習者の「的」の 過剰使用について(1)

—連体修飾マーカの日本語中国語双方向習得研究の立場から—

張 麟 声

1 はじめに

本稿は、連体修飾マーカの日本語中国語双方向習得研究の段階的成果として位置づけられるものであり、日本語を母語とする中国語学習者の、単純修飾構造の使用に見られる「的」の過剰使用を取り扱う。ここで言う単純修飾構造とは、被修飾語にかかる修飾語が1語か1フレーズである場合を指す。これに対して、被修飾語にかかる修飾語が2語か2フレーズ、あるいはそれ以上である場合は、複雑修飾構造と呼ぶ。そのような複雑修飾構造に見られる「的」の過剰使用については、稿を改めて考察を行うつもりでいるので、タイトルに(1)を付けたわけである。

「的」の過剰使用とは、本来マーカが必要ではないところに、「的」を使った場合の誤用を指す。この種の誤用を調査するのに、北京言語大学(中国)のホームページに公開されている「HSK 动态作文语料库¹(HSK 動的作文コーパス, 以下はこの日本語の訳名を使う)を使用した。コーパスから日本人学習者の「的」の過剰使用を1092個検出し、その中から単純修飾構造のものを選び出して、考察の資料とした。

旧稿の張麟声(2009D)では、日中両語の連体修飾マーカの対照研究を行い、対応するケースやずれるケースを一部特定した。本稿

¹崔希亮教授の研究グループの構築による。1992年から2005年までの、中国語能力試験に参加した約200か国の学習者の作文にエラー情報を付与して作られた中間言語コーパスであり、複数の検索機能がついている。URLは<http://202.112.195.192:8060/hsk/index.asp>である。

ではその際の結論にさらなる検討を加えると同時に、「日本語では「の」を使うが、中国語では普通「的」を使わない」というような、日本語の「の」の転移として「的」が過剰使用される可能性が考えられるケースに、上述の HSK 動的作文コーパスから得たデータをつきあわせて考察を進める。

本稿の構成としては、まず第 2 節において、張麟声(2009D)で言及された「日本語では「の」を使うが、中国語では普通「的」を使わない」ケースについて再検討し、その充実を図る。続く第 3 節では、そのような、日本語の「の」の転移が予想されるケースと HSK 動的作文コーパスから得たデータを比較し、考察を行う。最後に第 4 節をまとめとする。

2 「の」は使うが、「的」は使わないか、あるいは、使っても使わなくてもよいケースについて

張麟声(2009D)では、鈴木康之(1978~1979)を参考にし、使用頻度、日中両言語の対応関係及び術語の分かりやすさなどを総合的に考慮し、修飾部とヘッドの意味関係を以下 12 種類に整理した。

- <1> 修飾部がヘッドの所有者である場合
- <2> 修飾部がヘッドの擬似所有者である場合
- <3> 修飾部とヘッドが全体と部分の関係で、修飾部がヘッドの「主」である場合
- <4> 修飾部とヘッドが物・人とその周囲という関係である場合
- <5> 修飾部がヘッドの存在場所か存在に関わる時間である場合
- <6> 修飾部がヘッドのソース、ゴールまたは相手である場合
- <7> 修飾部がヘッドの主体か対象である場合
- <8> 修飾部がヘッドの原産地か出身地である場合
- <9> 修飾部がヘッドの素材である場合
- <10> 修飾部がヘッドの属性か状態である場合
- <11> 修飾部がヘッドの職位・身分である場合
- <12> 修飾部がヘッドの内容や様式である場合

また、日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使わないケースとして、次の<3>×<9>×<11>、それから、日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使っても使わなくてもよいケースとして、次の<2>×<4>×<8>の、それぞれ3種類あることを記述した。

A 日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使わないケース

<3> 修飾部がヘッドの「主」である場合の、修飾部が定指示ではないとき

例：(日) 瓶のふた ⇔ (中) 瓶盖儿

<9> 修飾部がヘッドの素材である場合

例：(日) 金のネックレス ⇔ (中) 金项链儿

<11> 修飾部がヘッドの職位・身分である場合

例：(日) 弁護士の鈴木さん ⇔ (中) 律师铃木

B 日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使っても使わなくてもよいケース

<2> 修飾部がヘッドの擬似所有者である場合の、修飾部が代名詞のとき²

例：(日) わたしの妹 ⇔ (中) 我妹妹，ただし、「我的妹妹」でも可

<4> 修飾部とヘッドが物・人とその周囲という関係である場合

例：(日) 机の上 ⇔ (中) 桌子上(面)，ただし「桌子的上面」でも可

<8> 修飾部がヘッドの原産地か出身地である場合

例：(日) フランスの香水 ⇔ (中) 法国香水儿，ただし「法国的香水儿」でも可

² このケースに関して、旧稿においては、例「(9) 我妹妹，(10) 你们公司，(11) 他学生」と例「(9) 我的妹妹，(10) 你们的公司，(11) 他的学生」を使って考察し、「的」を使っても使わなくてもいいとしたが、「的」を使う頻度がたいへん低いことを考えて、まとめに当たっては、日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使わないケースに入れた。しかし、「的」を使う頻度がいくら低くとも使えるので、この度、日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使っても使わなくてもよいケースに入れ直した。

旧稿で取り扱った 12 種類の定義や、日中両語の対応関係などに関する記述は基本的に適切であるが、その 12 種類だけでは単純修飾構造の全容をカバーしきれない。本稿では、これに新たに 5 種類加え、従来の 12 種類に続く第 13 類～第 17 類とし、次のように、旧稿と同じ体裁で記述する。

<13> 修飾部が指示詞による定指示である場合

この場合、修飾部は指示詞か、指示詞+助数詞からなるフレーズで、ヘッドは基本的に普通名詞になるが、固有名詞が使われることもある。

日本語においては、「この・その」の「の」をどうとらえるかはともかく、以下のように、ヘッド名詞の直前には必ず「の」が来ることになっている。その意味で、「の」を使わなければならないと言える。

- (1) このかばん [指示詞+普通名詞]
- (2) あの病院 [指示詞+普通名詞]
- (3) それらのリンゴ [指示詞+普通名詞]
- (4) その種のボールペン [(指示詞+助数詞)+普通名詞]
- (5) この山田君 [指示詞+固有名詞]

一方、中国語では、以下のように、原則として“的”を使わない。

- (1)' 这个书包 [指示詞+普通名詞]
- (2)' 那(家/个)医院 [指示詞+普通名詞]
- (3)' 那些苹果 [指示詞+普通名詞]
- (4)' 那种自动铅笔 [(指示詞+助数詞)+普通名詞]
- (5)' 这个山田 [指示詞+固有名詞]

ただし、中国語でも、「这样」「那样」という指示詞プラス「样」(日本語の漢字では「様」)からなるフレーズの場合は、次のように、「的」が必須になる。

- (6) (*这样 / 这样的)学校 [指示詞フレーズ+普通名詞]
- (6)' このよな学校 [指示詞フレーズ+普通名詞]

「这样」「那样」は、日本語に訳すと「このよう(に/な)」「そのよう(に/な)」になり、個体に関する定指示というよりは、「種類」を指し

示す機能を担う。しかし、このような意味上の特徴が「的」を使わなければならない原因だとは考えられない。なぜなら、例(4)'のように、指示詞プラス「种」(日本語の漢字では「種」)からなるフレーズも同じく「種類」を指し示すにもかかわらず、「的」を使えないからである。したがって、「这样」「那样」といった指示詞プラス「样」からなるフレーズは、現時点では特殊なケースとみなすことにする。

<14> 修飾部が数詞や序数詞フレーズである場合

この場合、修飾部は数詞フレーズか、序数詞フレーズ指示詞で、ヘッドは普通名詞である。日本語では、次のように、「の」を使われなければならない。

- (7) 2人の学生 [数詞フレーズ+普通名詞]
- (8) 3冊の本 [数詞フレーズ+普通名詞]
- (9) 4番目の恋 [序数詞フレーズ+普通名詞]
- (10) 5人目の息子 [序数詞フレーズ+普通名詞]

一方、中国語では、次のように、「的」を使わない。

- (7)' 两个学生 [数詞フレーズ+普通名詞]
- (8)' 三本书 [数詞フレーズ+普通名詞]
- (9)' 第四次恋爱 [序数詞フレーズ+普通名詞]
- (10)' 第五个儿子 [序数詞フレーズ+普通名詞]

<15> 修飾部が列举フレーズである場合

この場合、修飾部は、列举フレーズで、ヘッドは普通名詞である。

日本語の列举フレーズは、下位概念をくくるのに、「など」「のような」「といった」のような形が用いられる。こういった「など」「のような」「といった」の3形式のうち、「のような」と「といった」の場合は、それ自体がすでに連体形になっているので、「の」が必要ではないが、「など」は以下の例(13)のように、「の」を使わなければならない。

- (11) 東京や大阪のような大都会 [列举フレーズ+普通名詞]
- (12) 東京や大阪といった大都会 [列举フレーズ+普通名詞]
- (13) 東京や大阪などの大都会 [列举フレーズ+普通名詞]

中国語でも、次のように、列挙フレーズは「这种/这样的」「之类的」「等」など、数種類用いられている。

(11)' 東京, 大阪(这种/这样的)大城市 [列挙フレーズ+普通名詞]

(12)' 東京, 大阪之类的大城市 [列挙フレーズ+普通名詞]

(13)' 東京, 大阪等大城市 [列挙フレーズ+普通名詞]

そして、そのうちの、(11)' に用いられている「这种」と「这样的」は、すでに、<13>「修飾部が指示詞による定指示である場合」において定指示の形として分析しているので、ここでは繰り返さない。

一方、(12)' に用いられている「之类的」には「的」が含まれているので、「的」が必須だと考えられ、これに対して、(13)' に用いられている「等」の場合は、その後に「的」をつけることはできない。

日本語の「など」を漢字で表わせれば「等」になり、中国語の単語である「等」と、表記及び意味において、完全に一致する。だが、日本語の「など(等)」の後には「の」を使わなければならないのに、中国語の「等」には「的」を従えることができず、両者は好対照をなす。

<16> ヘッドが「家(うち)」を表わす名詞である場合

この場合、修飾部は普通は人称代名詞か固有名詞で、ごく稀に普通名詞も見られ、ヘッドは、タイトルにあるように、「家(うち)」を表わす名詞] となる。

日本語では、次のように、修飾部が人称代名詞であろうと、固有名詞あるいは普通名詞であろうと、「の」を使われなければならない。

(14) 私の家 [人称代名詞+「家(うち)」を表わす名詞]

(15) 彼のお家 [人称代名詞+「家(うち)」を表わす名詞]

(16) 山田さんのお宅 [固有名詞+「家(うち)」を表わす名詞]

(17) 女の子のお家 [普通名詞+「家(うち)」を表わす名詞]

一方、中国語では、次のように、普通は「的」を使わない。

(14)' 我家 [人称代名詞+「家(うち)」を表わす名詞]

(15)' 他家 [人称代名詞+「家(うち)」を表わす名詞]

(16)' 山田先生家 [固有名詞+「家(うち)」を表わす名詞]

(17)' 女孩儿家 [普通名詞+「家(うち)」を表わす名詞]

もつとも、日常会話、あるいは、普通の応用的文体とは異なる抒情的な文体においては、次のように、「的」を用いることも可能であることは記述しておく必要がある。

- (18) summer的家(実際あるブログの名前)
- (18)' summer の家
- (19) 我的家, 我未来的家, 究竟会是什么样子? (「九九文章ネット」という文学サイトより)
- (19)' 私の家, 私の未来の家は, いったいどんな感じのものになるだろう。)

<17> ヘッドが時間を表わす名詞である場合

この場合、修飾部は動詞、形容詞、名詞または「この/その」のような、指示代名詞と考えられるもののいずれも可能である。

日本語では、以下のように、修飾部が動詞、形容詞であるときは、その連体形が直接名詞にかかり、そして、修飾部が名詞であるときは、「の」が必須である。

- (20) 寒いとき [形容詞+時間を表わす名詞]
- (21) 中学校に行っていたころ [動詞+時間を表わす名詞]
- (22) 子どものとき [普通名詞+時間を表わす名詞]
- (23) この際 [指示代名詞+時間を表わす名詞]

これに対して、中国語では、(17)' のような、すでに<13>修飾部が指示詞による定指示である場合において分析していた修飾部が定指示の場合を除けば、以下のように、時間を表わす名詞が2音節の「时候」であるときは「的」が必須で、時間を表わす名詞が1音節の「时」であるときは「的」を使わない。

- (20)' 冷的时候 / 冷时 [形容詞+時間を表わす名詞]
- (21)' 上中学的时候 / 上中学时 [動詞+時間を表わす名詞]
- (22)' 小孩儿的时候 / 小孩儿时 [普通名詞+時間を表わす名詞]
- (23)' 这时候 / 此时 [指示代名詞+時間を表わす名詞]

以上、新たに記述した5ケースを加えると、日本語では「の」を使

うが、中国語では“的”を使わないケースと、日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使っても使わなくてもよいケースとしては、それぞれ次のように、8種類と3種類になる。

A 日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使わないケース：

- 〈3〉 修飾部がヘッドの「主」である場合の、修飾部が定指示ではないとき
- 〈9〉 修飾部がヘッドの素材である場合
- 〈11〉 修飾部がヘッドの職位・身分である場合
- 〈13〉 修飾部が指示詞による定指示である場合
- 〈14〉 修飾部が数詞や序数詞フレーズである場合
- 〈15〉 修飾部が列挙フレーズで、日本語では「など」、中国語では「等」が用いられる場合
- 〈16〉 ヘッドが「家(うち)」を表わす名詞で、抒情的文体ではない場合
- 〈17〉 ヘッドが時間を表わす名詞で、中国語では一音節の「時」が用いられる場合

B 日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使っても使わなくてもよいケース

- 〈2〉 修飾部がヘッドの擬似所有者である場合の、修飾部が代名詞のとき
- 〈4〉 修飾部とヘッドが物・人とその周囲という関係である場合
- 〈8〉 修飾部がヘッドの原産地か出身地である場合

3 「の」は使うが、「的」は使わないか、あるいは、使っても使わなくてもよい場合の「的」の過剰使用

この節では、第2節でまとめられた日本語では「の」を使うが、中国語では「的」を使わないか、または、使っても使わなくてもいいケースに関する、HSK 動的作文コーパスに含まれる「的」の過剰使用の実態を考察する。

例文を提示するにあたっては、問題の個所を目立たせるために、「的」の過剰使用に関するタグだけを残し、それ以外のタグについては、その担う情報を生かして用例を修正する措置を取る代わりに、すべてははずした。また、「的」の過剰使用を含む修飾構造に関して、日本語訳を付けた。

なお、用例の末尾の番号は、HSK 動的作文コーパスから検出した時のものである。

A 日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使わないケース：

<3> 修飾部がヘッドの「主」である場合の、修飾部が定指示ではないとき：

このケースに当たる「的」の過剰使用は見当たらなかった。

<9> 修飾部がヘッドの素材である場合：

このケースにおいても、「的」の過剰使用は見当たらなかった。

<11> 修飾部がヘッドの職位・身分である場合：

このケースに当たる「的」の過剰使用については、以下の1例だけ観察された。

(24) 她对圆号小组唯一的新同学{CD的}我很好，我也敬爱她。{687}

△ 新同学{CD的}我 ⇒ 新しいクラスメート(の/である)私

<13> 修飾部が指示詞による定指示である場合：

このケースに関しては、11個観察された。以下、修飾語の異なる語彙ごとに1例ずつあげておく。

(25) 只顾个人，不顾整体，这种{CD的}看法是根本不行的。{877}

△ 这种{CD的}看法 ⇒ この(種の/ような)考え方

(26) 我一定不能忍受那种{CD的}情况。{677}

△ 那种{CD的}情况 ⇒ その(種の/ような)状況

(27) 如果同意安乐死的话，丈夫，家庭的人都没有这些{CD的}痛苦。

△ 这些{CD的}痛苦 ⇒ これらの苦痛

(28) 过去人们只是为了满足“吃饱”这一个生理上的需求而没注意到用过农药的食物会给我们带来一哪些{CD的}不良影响。

{356}

△ 哪些{CD的}不良影响 ⇒ どの(種の/ような) よくない影響

(29) 所以我希望各国政府, 法律专家和医学家赶快考虑这个问题, 提出一定{CD的}规定。{938}

△ 一定{CD的}规定 ⇒ 一定の規定

<14> **修飾部が数詞や序数詞フレーズである場合：**

このケースでは45個見られた。以下、主な形式を一つずつという原則で、数詞フレーズを5つ、助数詞フレーズを2つあげておく。数詞フレーズには、例(31)～(34)のように、数量を表す副詞が含まれている。構文的性格が数詞節と同じなので、数詞フレーズとみなし、ここで合わせて扱った。

(30) 大自然中的这个小学校, 一共有九十八个{CD的}学生。{592}

△ 九十八个{CD的}学生 ⇒ 98人の学生

(31) 尽[B进]管有一部分{CD的}人仍然受到饥饿的困扰。{393}

△ 一部分{CD的}人 ⇒ 一部の人

(32) 当时我已经会说一点{CD的}汉语, 所以有时给来日本观光的华侨做导游。{820}

△ 一点{CD的}汉语 ⇒ 少しの中国語

(33) 三个和尚想尽了一切{CD的}办法, 最后还是每个人都拿着盆子, 拼命地跑到山下的井里去打水。{462}

△ 一切{CD的}办法 ⇒ すべての方法

(34) 还有抽烟的人常常扔掉烟, 大部分{CD的}抽烟的人不带专门放烟头的容器。{712}

△ 大部分{CD的}抽烟的人 ⇒ 大部分の喫煙者

(35) 我这个人来中国的时候就是第一次{CD的}出国。{450}

△ 第一次{CD的}出国 ⇒ (第一回目の/初めての) 出国

(36) 第二个{CD的}和尚个子很高但很瘦, 像一个大竹杆。{535}

△ 第二个{CD的}和尚 ⇒ 二番目の和尚

<15> **修飾部が列举フレーズで, 日本語では「など」, 中国語では「等」が用いられる場合：**

このケースに 21 個が観察された。以下 3 つほどあげる。

(37) 東京, 大阪, 名古屋, 横滨等{CD 的}大城市里, 有这种规定的公共场所越来越多。{567}

△ 東京, 大阪, 名古屋, 横滨等{CD 的}大城市 ⇒ 東京, 大阪<略>などの大都会

(38) 他卖面包, 饮料, 香烟, 洗衣粉等{CD 的}日常用品。{746}

△ 面包, 饮料, 香烟, 洗衣粉等{CD 的}日常用品 ⇒ パン, ドリンク<略>などの日用品

(39) 我在长野的农村做的事情是栽培生菜, 卷心菜, 白菜等{CD 的}蔬菜。{927}

△ 生菜, 卷心菜, 白菜等{CD 的}蔬菜 ⇒ レタス, キャベツ<略>などの野菜

<16> ヘッドが「家(うち)」を表わす名詞で, 抒情的文体ではない場合 :

このケースに関しては, 2 つしか観察されなかったので, 全部あげておく。

(40) 我在北京的时候, 住在他的女朋友{CD 的}家, 每天跟他们一起参观北京的名胜古迹。{600}

△ 女朋友{CD 的}家 ⇒ ガールフレンドのお家

(41) 我的同屋是马来西亚人, 因为她{CD 的}家附近没有铁路, 她第一次坐火车, 在火车上有点儿紧张, 东张西望。{601}

△ 她{CD 的}家 ⇒ 彼女のお家

<17> ヘッドが時間を表わす名詞で, 中国語では一音節の「时」が用いられる場合 :

このケースに関しても, 以下のように, 2 つしか観察されなかった。

(42) 孩子的成绩不太好{CD 的}时也是。{755}

△ 成绩不太好{CD 的}时 ⇒ 成績が良くないとき

(43) 世界上没有为了饥饿而死的人{CD 的}时, 才想这种问题。{762}

△ 没有为了饥饿而死的人{CD 的}时 ⇒ 飢餓のために死ぬ人がいないとき

B 日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使っても使わなくてもよいケース

〈2〉 修飾部がヘッドの擬似所有者である場合の、修飾部が代名詞のとき

このケースにおいては、4つの例文に過剰使用が5か所見られ、形式もそれぞれ違うので、以下すべてあげておく。

- (44) 我{CD的}爸爸的爱好是看书，所以从小的时候我开始看书。
{838}

△ 我{CD的}爸爸 ⇒ わたしのお父さん

- (45) 我现在有时候也考虑，如果现在爸爸还活着的话……。我要退学，要上班；哥哥也不能结婚——这不是我们{CD的}爸爸的希望。{837}

△ 我们{CD的}爸爸 ⇒ わたしたちのお父さん

- (46) 他的父亲是一位大学教授，不过他本人没有大学毕业，所以他年轻时，他{CD的}父亲对他说：“你这个没有头脑的废物！”
{832}

△ 他{CD的}父亲 ⇒ 彼のお父さん

- (47) 我赞扬她{CD的}妈妈的爱国主义行为，也赞扬我{CD的}朋友的思考。{932}

△ 她{CD的}妈妈 ⇒ 彼女のお母さん

我{CD的}朋友 ⇒ わたしの友達

〈4〉 修飾部とヘッドが物・人とその周囲という関係である場合

このケースに関しては、「的」の過剰使用は観察されなかった。

〈8〉 修飾部がヘッドの原産地か出身地である場合

このケースには、以下のように、5つ観察された。

- (48) 她本来是黑龙江{CD的}人，两年前她的丈夫的工作单位搬到了昆明。{407}

△ 黑龙江{CD的}人 ⇒ 黑竜江の人

- (49) 通过他，我知道了很多的日本{CD的}企业在海外做买卖{CC 卖买}。{420}

△ 日本{CD的}企业 ⇒ 日本の企業

(50) 听说你们公司日本{CD的}客人挺多,那我一定会发挥自己的能
力。{599}

△ 日本{CD的}客人 ⇒ 日本のお客さん

(51) 我不知道在中国{CD的}烟对公众利益的影响,可是我知道日本
{CD的}烟对公众利益的影响是非常不好。{747}

△ 日本{CD的}烟 ⇒ 日本のたばこ

(52) 我的假期就是练习做中国{CD的}菜。

△ 中国{CD的}菜 ⇒ 中国料理

以下、これまでに記述した各ケースの過剰使用の実数を一表にまとめて示しておく。

A 日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使わないケース：	
<3> 修飾部がヘッ드의「主」である場合の、修飾部が定指示ではないとき：	0
<9> 修飾部がヘッ드의素材である場合：	0
<11> 修飾部がヘッ드의職位・身分である場合：	1
<13> 修飾部が指示詞による定指示である場合：	11
<14> 修飾部が数詞や序数詞フレーズである場合：	45
<15> 修飾部が列挙フレーズで、日本語では「など」、中国語では「等」が用いられる場合	21
<16> ヘッドが「家(うち)」を表わす名詞で、抒情的文体ではない場合：	2
<17> ヘッドが時間を表わす名詞で、中国語では一音節の「时」が用いられる場合：	2
B 日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使っても使わなくてもよいケース	
<2> 修飾部がヘッ드의擬似所有者である場合の、修飾部が代名詞のとき	4
<4> 修飾部とヘッドが物・人とその周囲という関係である場合	0
<8> 修飾部がヘッ드의原産地か出身地である場合	5

4 まとめ

本稿では、従来の研究成果を一段充実させ、「日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使わないケース」と「日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使っても使わなくてもよいケース」をそれぞれ 8 ケースと 3 ケースに整理し、HSK 動的作文コーパスから、そのケースごとの、「的」の過剰使用の実数を洗い出してみた。実数がゼロか、一桁か、二桁かで示すと、次のようになる。

① 実数がゼロの場合：

- <3> 修飾部がヘッドの「主」である場合の、修飾部が定指示ではないとき
- <9> 修飾部がヘッドの素材である場合
- <4> 修飾部とヘッドが物・人とその周囲という関係である場合

② 実数が一桁の場合：

- <11> 修飾部がヘッドの職位・身分である場合
- <16> ヘッドが「家(うち)」を表わす名詞で、抒情的文体ではない場合
- <17> ヘッドが時間を表わす名詞で、中国語では一音節の「時」が用いられる場合
- <2> 修飾部がヘッドの擬似所有者である場合の、修飾部が代名詞のとき
- <8> 修飾部がヘッドの原産地か出身地である場合

③ 実数が二桁の場合：

- <13> 修飾部が指示詞による定指示である場合
- <14> 修飾部が数詞や序数詞フレーズである場合：
- <15> 修飾部が列挙フレーズで、日本語では「など」、中国語では「等」が用いられる場合

もっとも、この程度の数字では、多くのことを語れない。用例が少ない、あるいは観察されなかったのは、コーパスの量的な制約や作文のテーマの性格によるものなのかもしれない。しかし、実数が二桁の 3 ケースに関しては、日本語の「の」の転移が「的」の過剰使用の原

因になっている可能性が大きい。筆者自身が日本人学習者に対する中国語教育を約 10 年してきているが、この 3 ケースに関しては、日ごろの観察の結果と完全に一致しているからである。

連体修飾マーカ―の日本語中国語双方向習得研究における課題は、山ほど残されている。次の第一歩としては、以下の、「的」の過剰使用の実数が二桁である 3 ケースに関して、それが、日本語の「の」の転移だという仮説を立て、この仮説を検証するための習得的調査を行う。

- <13> 修飾部が指示詞による定指示である場合
- <14> 修飾部が数詞や序数詞フレーズである場合
- <15> 修飾部が列举フレーズで、日本語では「など」、中国語では「等」が用いられる場合

参考文献：

- 奥野由紀子(2005)『第二言語習得過程における言語転移の研究—日本語学習者による「の」の過剰使用を対象に—』風間書房。
- 鈴木康之(1978~1979)「ノ格の名詞と名詞とのくみあわせ(1・2・3・4)」『教育国語』55号, 56号, 58号, 59号。
- 張麟声(2009D)「名詞にかかる連語的修飾構造の日中対照研究—「の」と“的”の使用の有無を中心に—」大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化学研究 言語情報編』第4号。